

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	散歩中に職員から声を掛けることで地域の方々と、お話しできるようにしている。	目に付きやすい場所に掲示し、職員会議で確認するなど、理念の徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な散歩や買物、隣接する病院への往復などで、顔なじみとなり、立ち話や、話し相手に来て下さる方がいる。	隣接する病院への往復や散歩の際に、地域の人と立ち話をしたり、出会った人と顔馴染みになることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月一回地元の地域紙への掲載により情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	アンケート調査の結果や意見を取り入れ、献立表の掲示や生活状況を手紙で、お知らせしている。	運営推進会議は町内会副会長や、包括支援センター職員、家族代表が参加して2カ月に一度開催されている。その際、入居者の生活状況を報告し、今後の支援のあり方について話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新の機会に、市町村担当者に、利用者の暮らしぶりを伝え、連携を深めている。	介護度の更新時、地域包括支援センター職員と利用者の支援について話し合っている。	地域包括支援センター担当者とはよく話し合っているようだが、市担当者とのコミュニケーションの強化をさらに図ってほしい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を、事業所内で実施し、利用者の行動を察知したら安全面に配慮しつつ、他の方法を試してみる。	暴力的な行為や失禁の後、排泄物を触るなど不潔な行為がある場合は、やむをえず入居者を拘束することがある。玄関は入居者の安全を考え、鍵をかけるようにしている。	玄関の施錠について、入居者の安全という考え方もあるが、家族や近隣の人が気軽に事業所に出入りしやすいように配慮することも大切で、鍵をかけた工夫ができないかと感じました。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、講習会に参加報告、事業所全体での意識レベル向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が権利と尊厳に対する意識を高め、法や制度を理解し、講演会や研修会に積極的に参加できるような体制作りを進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所の取り組みや、考え方を説明し、錠他の変化等の場合は、その後の対応も含めて、納得してもらえるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、面会時や手紙等でお知らせし、意見要望を言いやすい雰囲気づくりに留意している。	家族の意見を聞く際には雑談から始め、話しやすい雰囲気づくりに努めている。利用料の請求書と一緒に写真を送り、入居者の様子を家族に知らせている。	余り連絡のない家族への対応について、検討してほしいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを毎月行い、意見を聞くようしており、業務に反映するようになっている。	毎月職員会議を開いている。その際、職員は課題について自分の意見をしっかり述べ、管理者は職員の意見を聴き、運営に反映させるように努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者との連携により、職員会議にも出席し、個別職員の意見をくみ上げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や勉強会に、積極的に参加できるよう計画を立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に積極的に参加しても業務に支障が出ないよう職員人数を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談でご家族や、ご本人様より話を聞いて、サービス提供できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所が、何ができるかを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には家族の想いや状況を確認できるよう、サービス内容を考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはしていただく事と理解して共に支えあう関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を手紙で報告相談している。又、面会時にはご本人とご家族の潤滑油になるよう、心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方と、なじみの美容院に行かれる等、一人一人の生活習慣を大切にしている。	家族や入居者の馴染み友達の訪問がある。また、おしゃれな入居者は、美容院などにも行き、今までの習慣を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食後のゆったりとした時間等には職員が間に入り、お互いの話を頂くような働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方や、家族と事業所以外で、顔を合わすことがあれば、最近の暮らしぶりを尋ねてみるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中で、一人一人の考えを確認するようにしている。	職員は、入居者の思いを表情や態度からくみ取り、特に自分の気持ちを表現しにくい入居者の思いを理解するように心がけている。また、そのために職員間での話し合いを深めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現在に至るまでの状況を知る事で、職員が出来る事が見えてくる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活のリズムの中で、本人にできる事をふやしてしてもらいたいと考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や、ご家族との関わりの中で、思いや意見を聞き、職員全員の意見交換やカンファレンスを行っている。	月一回、ドクターも参加してカンファレンスを開いている。また、職員同士話し合い、現状に即した介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人フィルを用意し、日々の暮らしの様子等を記録又確認してから業務に取りかかる事としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様全体が落ちついて過ごせる様に業務内容を臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらい、当事業所の情報も交換している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携の中で安心して受診できるよう支援している。	かかりつけ医や事業所内の病院と連携を取っている。入居者も職員も安心できる支援体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状態の変化があり不安な時は、看護師や医師の指示をもらう様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、1～2日おきに見舞い状況把握する事にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に意志確認書を作成し、事業所が対応できる最大のケアについて説明している。	入所時に重度化した場合の対応について、家族と事業所の間で、十分な話し合いを行っている。家族は安心しているようである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が対応できるようマニュアルを作成しており、勉強会等で実施、指導してもらえるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の確認、環境整備を行い、防災対策をしている、又倉敷市消防局主催の消火技術訓練大会へも出場している。	事業所内は、暖房はエアコン、調理はパネルヒーター等、一切火を扱わない仕様になっている。また、消防署の指導を受け、職員の防火の意識の向上を図っている。救助袋の点検も怠らないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要なときも、本人第一主義でケアを心がけている。	入居者本人の思いを大切に、約束事にとらわれず、援助してほしい時に本人の気持ちに添うよう、臨機応変に援助ができています。また、居室に引きこもらないよう、日中はなるべく人が居る居間などで過ごしてもらうように促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲みたい物、食べたい物を、ご自分で決めて頂く等、会話の中に選択肢の提案をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調を考慮して、本人の気持ちを尊重する様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは、本人の意思を尊重し、必要なときに、手伝うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや、配膳、下善をして頂く事で、食事作りの雰囲気を感じて頂く様にしている。	食事は病院の栄養士やSTの助言により、きざみ食やとろみをつけたものなど、入居者の障害の程度に添ったものが提供されている。入居者は自分のペースでゆっくり食事をし、準備や後片づけを職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立のバランスに考慮しながら、摂取量を把握し、個別に高カロリー食品等で栄養摂取できるよう、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は、声かけ見守りをし、できない方に関しては、毎食後のケアを行い、歯磨きの重要性を理解して頂く様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位ができる方については、ズボンの上げ下ろしを介助することで、トイレ内での排泄誘導を行っている。又、時間帯に応じたパット類を使用している。	職員は入居者の排泄回数に気をつけ、居室にポータブルを置かないで、トイレでの排泄を促すなど、自立に向けた支援を行っている。また、自分でトイレに行けない入居者には時間を決め、その都度介助、誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表でパターンを把握し、牛乳やヨーグルト、繊維質の多い食材を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	仲のよい方同士で、入浴して頂くなど、時間や順番にとらわれない入浴を心がけている。	隔日が入浴してもらっている。入居者の希望に応じて足浴もできる。職員が入浴を促しても、入りたくない入居者もいるが、仲良しの入居者を一緒に誘うことで、楽しく入浴してもらうようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動に参加して頂くよう、生活リズムを整えるようにしている。寝られない時には、温かい飲み物を飲ませたり、お話しをする等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方ケース毎に保管し、内容を把握できるようにしている。嚥下に問題のある方については、時間を考慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様のできる範囲で、仕事をお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を優先し短時間でも出かけるようにしている。	利用者の要望に合わせて、公園や寺社に出かけている。また、菊花展などのイベントにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布を持つことにより安心感や満足感が得られるため、家族にも協力して頂けるよう相談しながら支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より申し出があった時には、職員がダイヤルを回して電話して頂くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を活けたり、植木鉢を置くことで季節を感じていただく様に努力を行っている。	空気清浄機や加湿器を利用して、清潔で快適な環境を作っている。引きこもりを防ぐため、水分補給の時間には入居者に声をかけて、居間に出て来てもらっている。また、午前中はリハビリのため入れ替わり病院に出かけるが、入居者同士、居間で歓談して過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にソファを置き、仲のよい人同士が、ゆっくりできるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心して過ごして頂ける居室となる様、馴染みの物で環境作りをしている。	居室は、テレビなど本人の馴染みのものを持って来てもらい、入居者本人が居心地よく暮らせる場所になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状況に合わせて、環境整備をする様に、職員間で話し合ってる。		